

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・今月末で店舗が閉店となるため、3月1日からポイントセールを行っており、その影響で来客数が増えている。
		商店街（代表 者）	お客様の様子	・気候的に暖かくなったことで、冬の灯油高騰等の影響も一段落し、客の購買意欲が増している。春物のデザインもカラフルな色合いのものが多く、客が今までにない洋服を求めている様子がうかがえる。
				・ファッションが好調に推移している。まれに見る温暖な気候で春が1か月早く到来しており、気温の急激な上昇とともに、客の心理が一時的に好転している。例年であれば、ジャストシーズンで春物ファッションを購入していた客も前倒しで買っている。
		百貨店（販売促 進担当）	販売量の動き	・売上、来客数共に前年を上回っている。依然として酒やたばこの販売量の減少から客単価が低下しているものの、気温の上昇の影響から飲料水やアイスクリームの売上が増加している。
	コンビニ（エリ ア担当）	来客数の動き	・売上、来客数共に前年を上回っている。依然として酒やたばこの販売量の減少から客単価が低下しているものの、気温の上昇の影響から飲料水やアイスクリームの売上が増加している。	
	美容室（経営 者）	お客様の様子	・春になってきたので灯油の消費量が減っており、その分、ほかの商品やサービスに対する消費意欲が出てきている。そのため、3月は来客数、客単価共に上向いている。	
	変わらない	百貨店（役員）	お客様の様子	・景気が上向いているという実感は全くないが、今年は例年に比べて天候が良く、暖かくなるのが早かったことが、客の購買意欲を多少押し上げている。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・来客数は伸びているが、客単価が前年割れとなっている。
		スーパー（役 員）	単価の動き	・来客数が前年比107.1%と伸びていることから、既存店の売上が前年比108.0%と好調に推移している。客単価も前年比102.6%と前年を上回っているが、商品の値上げによるところが大きい。客1人当たりの買上点数が前年比99.7%と前年を下回っていることから、1回当たりの買物の慎重さがうかがわれる。
		コンビニ（エリ ア担当）	単価の動き	・ガソリン高騰と各商品の値上げの影響で、消費者の購入動向が非常に渋くなっている。特売品の購入ばかりが目立っている。
		コンビニ（オー ナー）	単価の動き	・様々な商品が値上げしていることから、単価の低いプライベートブランド商品を選択する客が増えており、客単価が低下している。
		衣料品専門店 （店長）	お客様の様子	・様々な商品が値上がりし、買い渋りが進んでいるとされるなか、売上が伸びている。季節的な要因もあるのかもしれないが、来客数が増えており、客単価も上昇していることから、必要な物については買うという傾向がうかがえる。
		家電量販店（店 員）	お客様の様子	・3月前半は来客数が予想よりも落ち込んでいたが、後半に入り、単身者向けのひとり立ちセットが前年並みまで持ち直した。
高級レストラン （スタッフ）		お客様の様子	・ランチの売上は前年並みであったものの、夕食の売上が前年から20%減少した。地方の人気店でも前年並みを確保するのが精一杯であり、食材の値上げを考えると収入減といえる。また、食材に中国産冷凍野菜を使う低価格店では、高価な国産品への切替えも進まず、従業員が心配している。地方の観光地は、道内からの卒業旅行で活況であるが、実際は客単価の低いアジア人を頼りにしているため、収入増とはなっていない。	
旅行代理店（従 業員）		販売量の動き	・国内旅行は前年並みとなっているものの、世界情勢不安の影響からか海外旅行が伸び悩んでおり、先行受注が前年比70%と悪い。	
旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・国内旅行、海外旅行共に上向きになっているとはいえない。前年並みの数値を維持するのが精一杯の状態である。		
タクシー運転手	お客様の様子	・昨年12月の運賃改定の効果がほとんどみられない。前年比がマイナスとなっているのが現状であり、特に日中の乗客が減少傾向である。		

	タクシー運転手	販売量の動き	・例年であれば、3月は歓送迎会等でタクシーの需要が多い月だが、今年はそのような需要も少なく、大変厳しい状態にある。
	設計事務所（職員）	お客様の様子	・北海道の景気を左右する建設業の動向で、大きなシェアを占める札幌圏マンションの在庫が多いことから値引き販売が横行している。また、建築基準法の改正や建設資材の値上がりの影響で、新築物件の苦戦も避けられないことから、土地取得や着工見合わせがしばらく続きそうな状況である。
	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・地元大手の住宅メーカーの倒産が生じるなど、住宅業界では、相変わらず悪い状況が続いている。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・高額商品の売行きが落ちている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・気温の上昇に伴い、来客数が増加しているが、春物関連商品の動きが鈍い。客の購買意欲が安定せず、売上の増加がみられない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・春物シーズンの真ただ中だが、先行き不安や生活必需品の値上がり等で、ただでさえ慎重な買い方が更に慎重になっている。特売でさえ、なかなか購買に結びつかないのが現状である。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・暖かくなり、灯油高騰の影響は一段落したものの、食品、ビール等の値上げがめじろ押しで、消費者マインドは大変冷え切っている。そのような状況のなか、得意先である飲食店の客足もなかなか回復しない。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・3月は新入学や転勤等があり、ほかの月に比べて目的買いの客が多い月であるが、今年は際立った動員が感じられない。来客数の落ち込みが依然として続いており、落ち込み幅がなかなか縮小しない。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・店頭の来客数も、催事の来客数も伸びてこない。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・既存店の売上は前年とほぼ同額であるが、商品価格の値上がりによる客単価の上昇が影響してのものであり、全体としてはやや悪くなっている。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・品目によるのかもしれないが、客の買い控え、値段への敏感さがみられる。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・気温上昇に伴い来客数が増加傾向にあり、飲料やビールを中心に販売数量は増加している。しかし、客単価の回復は遅れている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・近頃、客の買い方がシビアになってきている。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・薄型テレビの販売は好調であるが、冷蔵庫や洗濯機といった白物家電の販売量の落ち込みが激しい。薄型テレビの好調さだけではカバーできない状況にある。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・大規模店で行われる週末の客寄せイベントのあおりで、週末の集客が悪くなっている。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・ガソリンなどの暫定税率の動向が不確定であり、客の買い控えが増えている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・週末になると、開店前から待ち客があり、ほぼ満席となるが、午後3時頃には一段落している。平日は更に悪く、来客数は前年から10%以上減少している。このため、売上は前年を下回っている。ただ、メニュー変更等の影響もあり、客単価は前年から7%増加している。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・社会経済情勢の不安定さを反映しているのか、道外からのツアー客が減少している。旭山動物園人気の恩恵も激減しており、宿泊客は札幌圏に移行しつつある。地元客も依然として増加に転じず、インターネット客だけが好調である。一方、宿泊客の消費単価は小幅ながら上昇基調にある。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊予約の状況を見ると、以前より予約の発生が遅くなっている。消費者はインターネット予約で当日の宿泊が割安になる傾向を見ているようであり、直近での割安料金を希望して、予約が遅くなっている。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの申込がまだ少ない。	

		タクシー運転手	来客数の動き	・例年、3月は年度末で人の動きがあり、タクシーの売上も12月に次いで良い月であるが、今月は暖かい日が多いせいか、タクシーの利用客が1月や2月と比べても少ない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・来客数が伸びず、前年を割り込んでいる状況である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は天候が良かったため、タクシーに乗らずに徒歩やバス、電車を待っている姿がよく見受けられた。客からの電話注文も少なかった。
		観光名所（役員）	来客数の動き	・春休みに入ったにもかかわらず、国内客の動きが今一つであり、来客数は前年から7～8%のマイナスが見込まれている。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・今月初め、地元大手の住宅メーカーが倒産した。昨年末にもやはり大手の工務店が倒産したばかりである。都心のマンションも売れ残りが目立っており、値引き幅が大きくなっている。全体的に消費マインドは冷え切っているようだ。
悪くなっている		一般小売店〔土産〕（店員）	単価の動き	・原油高により土産商品もかなり値上げしてきた。客にとっては1点当たりの商品が高くなったため、購入数を減らす傾向にあり、それが客単価の低下につながっている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・様々な食品の値上げが相次いでおり、客の財布のひもが確実に固くなっている。
		高級レストラン（スタッフ）	競争相手の様子	・新規に2店のホテルレストランが開業したため、昼食、夕食共に客が流れ、来客数の減少が顕著となっている。料理の味やサービスに自信はあっても、客の低単価志向に歯止めが掛かってこない状況である。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・送別会シーズンであるにもかかわらず、繁華街が寂しく、ここ2～3年のなかで一番状況が悪かった。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・移動体通信キャリアの選択に対し、品質や機能を落とすとしても価格を重視する度合いが強くなってきたため、業界全体としての収益が大きく減少している。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
変わらない		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の生産、製造に大きな変化がみられない。
		司法書士	取引先の様子	・土地の売買取引、個人住宅の建築が減少傾向にあり、当分の間はこの傾向が続く。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・活気のある取引先とそうではない取引先が明白になってきた。
やや悪くなっている		食料品製造業（団体役員）	受注価格や販売価格の動き	・価格改定し、諸々の生産コスト上昇分を価格に転嫁した結果、取引先からの受注量の減少傾向や、他企業の安価商品を求める傾向が強まっている。また、消費者の購買動向をみると、生活防衛意識は更に強まっており、食品や光熱費の出費を極力抑えている。
		食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・前月に引き続き原材料価格が高騰しているものの、価格改定がイメージどおり進んでおらず、価格のギャップが更に拡大している。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・経済的な要因により、消費マインドが冷え込んでいる。とりわけ、耐久消費財としての家具は不要不急のため買い控えられている。
		出版・印刷・同関連産業（役員）	取引先の様子	・中小企業、地場企業に対して貸し渋りが強くなっているとの話が多くなっている。実際に地場を代表する企業が倒産した。
		輸送業（支店長）	取引先の様子	・決算期を迎え、資材や燃料費の高騰、資金繰りの悪化による倒産等がみられるようになってきた。特に地場の建設土木や建築資材等の会社で多く発生している。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・3か月前と比較して、業績の低下、費用削減の再強化などの話を取引先から聞く機会が増えている。

	金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は大手製造業の大型投資やオフィスビル、道外資本のホテル建設などが下支えしているが、道内企業の投資意欲は乏しい。また、前年後半からの住宅着工の減少が、設備工事業者や家具製造・販売業者にマイナスの影響を及ぼしている。個人消費は生活必需品の値上がりから節約志向が強い。総じて景気は停滞感が強い。
	その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	取引先の様子	・客先である施工業者からの受注は決定しているものの、改正建築基準法の影響で許認可が遅れるとともに、材料の値上がりや品薄状態がみられ、着工が大幅に遅れている。完成時期は変わらないため、高い材料を購入したり、残業や外注に頼らざるを得ず、収益が上がらない状況にある。
	悪くなっている		
雇用 関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	学校[大学] (就職担当)	求人数の動き ・2～3月に大学3年生及び短大1年生を対象とした就職説明会が学内や各就職情報誌主催で開催された。前年と比べて参加企業が増えており、企業の採用意欲がうかがえる。ただ、学生の動きが鈍いことが気懸かりである。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き ・当社への求人ニーズ、派遣ニーズは増加しているが、企業の採用基準は高く、なかなか採用されない。企業も中途半端な人材の採用は手控えており、即戦力の人材以外に人件費を使う考えはないようである。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き ・前年及び3か月前と比較しても、求人広告、出稿業種・業態にさほど変化がみられない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き ・春が近づき、企業の生産活動が増加する時期に当たるが、新規求人の出足が鈍い。ただ、年度を通しての新規求人数が初めて1,900件を上回るなど、明るい部分もある。
		職業安定所(職員)	求人数の動き ・有効求人倍率は8か月連続して前年を下回っているなど、雇用環境は厳しい状況が続いている。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き ・際立ったプラス材料があるのは、コールセンターや道外の請負・派遣業の求人程度である。飲食、建設、貨物物流、病院・医療、コンビニエンスストア、小売、いずれも前年の水準に届いていない。
		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き ・3月の求人広告売上は前年比86%であった。ただし、前年は特需があったため、実際には一昨年と同じ程度の売上である。特需の要因となった流通系の落ち込みが激しく、前年比67%となっているほか、派遣も1割程度落ち込んでいるが、看護師、福祉・介護等の医療関係の求人は良く、前年比135%と売上を伸ばしている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き ・2月の有効求人倍率は0.44倍で、3か月連続で前年を下回っている。また、新規求人数は前年から17.7%減少している。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き ・倒産した地場大手の住宅メーカー及び関連企業で大量解雇が発生しており、札幌、夕張、滝川で緊急総合相談会を開催した。
	悪くなっている		